

# ガンコ親父の

昔々、農民のマツジローは長年連れ添った妻と質素な生活が続けていたが、さすがの異常気象には弱音を吐いた。作物の収穫が激減、小麦粉はもう十二月の中旬には底を着きそうになっていた。「今年のクリスマスにはパンもケーキも焼けないんじゃないか?」と、マツジロー。「ええ、乾燥ジャガイモだって残りわずかです」と、妻の悲しい声。今、無差別な強盗犯罪が流行っているが、ウチに来て盗る物がないので困ってしまうやろうかと、マツジローは自虐気味に呟いた。「何か売れるものでもあれば、それを売って小麦粉を買ってくるのだ」とマツジローは言った。妻は「麦藁がそこにあるので」と言いつつ「私はそれで笠を編みます。雪の季節だから売り物になると思います」。クリスマス・イブの早朝、マツジローは妻が編んでくれた麦藁笠を持って、意気揚々と出かけた。街で半数でも売れば小麦粉や卵・ミルク・砂糖が買えるだろう。希望に満ちたマツジローはクリスマスケーキの甘さを思うと、よだれが止まらなかつた。

## 奄美黒糖焼酎



しかし、現実には甘くなかつた。イブの市街地は慌ただしく人が行き交い、マツジローが手に持つ素朴な麦藁笠には誰も注意を払わなかつた。おまけに空は暗雲に覆われ、雪が降り出し人数もまばらに。結局、麦藁笠はひとつも売れなかつた。空腹と寒さが身に堪えた。肩の力を落としながら、マツジローは家路についた。

途中、風雪が強くなり、少し歩いても雪が体に降り積もるほどだった。道端の七聖人の像も雪を被って立っていた。「これはこれは、酷いこと」と、七聖人の頭の雪を払い、売れ残っていた麦藁笠をそれぞれ頭の被せてあげた。しかし持ってきた笠は六個しかなかつたのでひとつ足りなかつた。マツジローはすぐに自分がかぶっていた破れ笠を「こんなもので申し訳ない」と深く謝りながら七体目の頭に乘せた。

イブの夜、マツジローと妻はじやがいもと塩だけのスープを作つて体を温めた。七聖人に麦藁笠を被せてあげたことについては、妻からも「良いことをしましたね」と褒められた。小麦粉のないクリスマス・イブだが、二人とも決して恨み言など言わなかつた。そしてその夜、二人はお腹が空く前にと、早めに眠りについた。

吹雪きの深夜、人など通るはずもないのに雪を踏み締める音が続いて、最後にドシン・ドサ・ドサと大きな物音がした。びっくりして飛び起きた二人は、恐る恐る扉を開けてみると、大きな荷物が数個置いてあつた。確かめてみると、小麦粉が入った大きな袋、ミルクがたっぷり壺、砂糖の大袋、卵の紙包、燃料用の薪、そして金貨が入った革袋も。

雪の表面には「メリー・クリスマス」と大きく書いてあつた。「あつ、あなたこんなもので」。七面鳥と「しまっちゅ伝蔵」も置いてあつたのだ。

「あなた朝食ですよ!」と妻の貴代の呼ぶ声があった。ハッと松次郎は夢から覚めた。夢だとはいえ、気持ちの良いクリスマスプレゼントだった。宝くじにでも当たつたような幸せな気分になつた松次郎は二度寝の態勢に入つた。

しまっちゅ  
伝蔵  
でん ぞう

## 常圧蒸留

### 昔ながらの手造り こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



喜界島酒造株式会社  
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12  
TEL 0997(65)0251



25度  
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



# 「雪笠」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。